

THE JTSU-E JOURNAL



東京都江東区越中島 3-5-10 | F A X:03-6458-5605 | メール: union@itsu-e.com | 編集人: 奥 冨 亨

第54号



性を再構築するために、すべての仲間と共同重視を推し進めよう。

"いのち"を守る!

鉄道業の専門性を重視した人間力・現場力が蓄積された「鉄道人」の自覚と責任ある 8・12 集会 開行動を実践し、社会から信頼される安全な鉄道を実現する 8・12 集会 催



日本航空123便が御巣鷹山に墜落した事故から39年を迎えた8月12日、中央本部は北とびあ飛鳥ホールにて〔"いのち"を守る!鉄道業の専門性を重視した人間力・現場力が 蓄積された「鉄道人」の自覚と責任ある行動を実践し、社会から信頼される安全な鉄道を実現する8・12集会〕を開催しました。本集会には、組合員のみならず輸送サービス労組 運動に共感し共創するJTSU議員懇談会の議員の方々も参加し、延べ390名が結集しました。

集会では、①「新たなジョブローテーション」実態調査報告、②首都圏における長編成ワンマンに対する取り組み報告、③安全・サービスに対する問題提起ののちに全体討論を 行いました。この全体討論では、16名の仲間から発言され、様々な会社施策によって生み出されている職場の実態や発生している問題点の解決をめざして取り組んだ職場からの実 践、鉄道業としてあるべき姿についてなど、多岐に渡りました。

現在、JR東日本では事故・事象の本質に迫らなかった結果、同じ事故・事象を繰り返しています。そして、三大労災が相次ぎ発生するなど、JR東日本の安全体質が問われる危機 的状況となっています。また「新たなジョブローテーション」「融合と連携」「統括センター化」によって、鉄道業として必要な専門性を蔑ろにするばかりか、効率化を優先するあ まり現場・利用者に大きな負担を押し付けています。地域と社会から必要とされる安全第一の鉄道をめざし、すべての職場から運動を推し進めることを全参加者で確認しました。

主催者あいさつ(要旨)

中央執行委員長 佐々木 宏充

◆ 名ばかりの「健康経営」「現場・利用者軽視」は認められない!

会社の掲げる「健康経営」と矛盾するかのように労働環境と労働条件は著しく低下しています。「融合と連携」の名の下に生産性向上だけがめざされ、社 員の健康を考える経営になっていません。そればかりか利用者の目線を無視し、経営の論理・経営側の理論による強者の論理が蔓延っています。鉄道という 公共交通機関をしっかりと守ることを通じ、人間らしく生きられる"人と社会に優しい社会"を築き上げていくべきです。

◆ 想定外が想定されていない会社施策は見直しを!

災

会社は『安全計画2028』の中で「想定外も想像して安全を先取る」と明記しましたが、打ち出される数々の施策は、真に想定外も想像しているのか甚 だ疑問です。ワンマン運転の拡大は、想定外が想像されて打ち出された施策でしょうか。相次ぐ地震やゲリラ豪雨、強大な台風の増加など、日々の生活の中 でも"いのち"が危険に晒される機会が増えており、想定外を想像するのであれば、異常時を想定した施策こそが、特に必要ではないでしょうか。

◆ 安全軽視・労組対策偏重の経営姿勢に対して声を上げ続けよう!

日本航空 123 便御巣鷹山墜落事故から 39 年を迎えました。当時の JAL も労組役員を差別し、第2組合づくりに勤しみ、安全よりも労組対策偏重によ って労働者の分断を引き起こしました。ジョブローテーション異動や統括センター化によって退職や心身の不調で休職に追い込まれている仲間がいます。 このまま黙っていては、安全・サービスレベルはますます低下し、働く社員にとどまらず利用者の"いのち"をも奪いかねません。安全な鉄道と地域から 信頼される真の公共交通としてのJR東日本を再びつくり上げるため、企業権力に屈することなく職場からのさらなるたたかいをつくり出しましょう。

県 記録

「新たなジョブローテーション」実態調査報告

● 首都圏における長編成ワンマンに対する取り組み報告 を行った後の

● 安全・サービスに対する問題提起全体討論で職場実態が発言される!

全体討論での主な発言

- 分会で安全集会を開催した。今後は職場討議資料を作成し、乗務員職場とはどうあるべきかの議論を深めてい
- 相次ぐ体調不良の対策を求めても会社は本質的な問題に向き合わない。他職場とも連携して安心して乗務でき る環境をつくり出していく。
- 会社の掲げた統括センター化によって働きがいが失われることがあって良いはずがない。対話と職場改善にこ だわり、組織強化と拡大でジョブローテーション施策の撤廃に向け、たたかいをつくり出していく。
- 会社はワンマン運転で発生した事象を隠そうとしている。分会としてワンマンモニターの視認性に関してアン ケートを実施し、多くの運転士が不満を持っている現状が明らかになった。
- ワンマン運転に関する団体交渉で会社は、ホームドアの検証結果すら回答できないにも関わらず「会社が決め」 たことがベスト」と発言した。ワンマン運転を運転士だけの問題に切り縮めず、一人ひとりの労働条件・生活・ 家族に関わる問題だと議論してきた。
- 利用者を置き去りにした減便による混雑で遅延が常態化するなか、無理な回復運転について分会で議論し、 安全第一を掲げて組合員と実践してきた。
- ① 企画業務に集中するあまり本来やるべき鉄道オペレーションに集中できていない。しかし、会社は企画業 務に集中していたために発生した事象であることを絶対に認めない。"いのちを守る業務"という自覚を育 む教育とその体制が必要だ。
- 車掌との兼務を希望したにも関わらず異動を慫慂された。挑戦や意欲、新たな価値創造といった施策本来 の目的は破綻していることが明らかになった。
- 職業体験での営業列車乗車は、想定外を想像して安全を先取りどころか、想定されるリスクにすら向き合 おうとしていない。「必要な措置を講じたから大丈夫」というが正常性バイアスに陥っている。
- 稼ぐことが安全をも上回り、本質を掘り下げる想像力・技量が著しく劣化している。
- ジョブローテーション撤廃を求めるビラ配布を実施。外に打ち出し広めることで、担った組合員も運動の 正しさを実感した。ジョブローテーション撤廃に向けてできることを全て取り組む。
- 「みどりの窓口手当」の新設について議論を深めている。また、カスハラについても実態調査を行い、世論 にも訴えていく。手当・働く環境の改善で働きがい・魅力ある駅職場をつくり出していく。

■ まとめ(要旨)

● 安全性再確立と地域と社会に必要とされるJR東日本を実現するために一丸となって取り組もう!

『JR 東日本が働く者が主役になれる会社として再スタートを切る』さらには『事故・事象の連鎖に歯止めをかけ、安全な鉄道を走らせるために JR 東日本の経営の 質を糺し、働きがい・生きがい・心の豊かさが実感でき、真の笑顔と活気あふれる職場を私たちの手で取り戻す』その決意を確認し、現経営陣が進める経営方針に物 言い、職場活動に対して処分を出す会社に抗う意味で2024年8月12日は輸送サービス労組の歴史に残る重要な1日になる。

鉄道事業にとって『"いのち"を預かる労働』ということは当たり前の考え方だが、内房線や新幹線での感電事故に対する書類送検などを見ても明らかなように、常 に鉄道事業者には大きな責任が付きまとう自覚と責任を改めて考える必要がある。JR 東日本の安全性の再確立を実現させ、地域と社会に必要とされる JR 東日本を 創造するために組織一丸となってこの現実に立ち向かっていく。

● 会社は安全マネジメントを放棄

乗務中のタブレットによる動画視聴の対策として乗務員室でのタブレッ トの平置きを禁止し、客室から見えるよう立てて置くように指導が徹底さ れたが、これは社員の勤怠管理を利用者に委ねているということ。社員管 理の放棄、安全面から考えると鉄道会社としての安全マネジメントを放棄 したと言え、企業としての経営責任の放棄だ。

会社は不慣れなお客さま・ 障害を持つお客さまに対し、その方々の近く にいる利用者に手助けをお願いする「声かけサポート運動」を実施してい るが、このことと同質だ。サービスについても利用者に委ね、経営の最重 要課題であるサービスについても放棄している。このことが、今の「みど りの窓口閉鎖」の問題にも現れている。私たちが安全を考え、安全性再確 立のために運動をつくり出すためには、会社の質を糺すことが第一に据え られなければならない。

● ジョブローテーション撤廃に向けて、社会に広範な訴えを

ジョブローテーション撤廃に向けては世の中にその問題性を大きく訴え るために、議員・市民団体・マスコミ・有識者に現状を訴えながら広く運 動をつくり上げていく。8月5日には LO 駐日事務所との意見交換が実現 し、JR 東日本が行った脱退勧奨・組合差別の事実、そして勝利を全組合員 と確認した脱退パワハラ訴訟の経過についてLO駐日事務所の担当者に説 明し、事実を知ってもらうことができた。JR東日本が行った企業犯罪を 糺し、正常な JR 東日本グループの実現に向けた新たな一歩を踏み出した ことから、今後はLOのアドバイスも踏まえて取り組みを強化していく。

最近では団体交渉の形骸化も目立って行われており、それらの不当労働 行為の事実を積み上げることも LO に訴える武器となる。ジョブローテー ション撤廃に向けて、仲間同士で支え合い、歯を食いしばりながら奮闘し てきた輸送サービス労組の団結力をもって、これからも立ち向かっていく。

● すべての仲間の力を結集して、

さらなる組織拡大を実現しよう!

7月31日に公表されたJR東日本の第1四半期決算は、単体で営業収 益は昨年比109.4%、四半期純利益は175%、725億円の純利益を計上 した。私たちの努力はもちろん、夏季手当を出し渋ったことでJR東日本 は儲かっている。絶対に取り戻さなければならない。安全は安心した生活 を送ることができて初めて確立することができる。

たたかう労働組合の必要性を感じた人たちが集まってこの輸送サービス 労組は結成された。そして、職場を基本につくり出す輸送サービス運動に よって未来を切り拓いていくことを議論し、未来ビジョンも打ち出してき た。この力をさらに職場から大きくつくり出し、この現実を変革するため のたたかいに挑んでいこう!

● コストダウンありきのワンマン運転拡大

長編成ワンマン運転はコストダウンを優先した施策であり、会社の利益と利用者の"い のち"を天秤にかけている経営に対して、鉄道労働者として責任を持ってこの事態に立 ち向かわなければならない。南武線で導入される TIMS モニターでのドア扱いは何個も 画面を見て、次々と確認する連続した作業となり、運転士の業務量さらには負担が膨大 になる。それで安全な作業体制など確立できるはずがない。ワンマン運転による運転士 の負担は非常に大きく、これ以上の負担が強いられれば、健康被害も想定される。今後 のスタンダードにしないために、地本とも連携して交渉等を強化していく。

現在、ワンマン運転に対して反対する声、車掌の必要性を訴える意見投稿が多く寄せ られている。利用者目線に立った行動と、現場で働く者が見抜く安全上の問題などにつ いて世論も味方につけて議論していくことが必要。沿線自治体議員への資料配布や夕ウ ンミーティングなども活用し、経営者目線ではなく、利用者目線の列車運行をめざして 運動を組み立てていく。

集会アピールをすべての仲間で読み合わせ、 鉄道人としての自覚と責任を持ち 課題解決に向けて全職場から実践しよう!

集会アピール

もはやJR東日本会社は「警鐘」を聞くことすらできないのか。 毎日のように同じような事故・事象が各地で繰り返し発生している。これまでの対策が活かされてい るのか、仕事の本質が理解されているのか、疑問を持つものばかりだ。

新型コロナウイルス感染症が拡大し、経営は赤字へ転落した。会社は「10年、時が早まった」とし、 「変革」「黒字必達」「よりお客さまに近いところでの発意発想」を合言葉に「業務の変革」「組織再編」 いこと、そして社員・家族の幸福の実現に資するものではないことが明らかになった。安全な鉄道を走 らせ続けるためには、エキスパートの育成可能な職場と人材育成・教育体制の確立が求められている。 自己申告書に基づく面談での申告を無視し本人の意向を尊重せず、安全性・専門性・

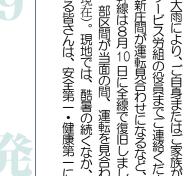
mの大幅滑走、東北本線の踏切無遮断での列車通過、除草作業中などの相次ぐ待避遅延、線路内拾得作 業中の汽笛吹鳴など、事故・事象が後を絶たない。JR東日本会社が打ち出す再発防止の対策は、現場 で一切機能せず、発生した事故・事象に対する責任を社員に押し付けている姿からも「グループ安全計 画2028」のテーマである「本質を踏まえ想定外も想像し安全を先取る」ことはできるはずもなく、

首都圏において長編成ワンマン運転の実施が提案されている。私たち輸送サービス労組は、短・中編 成ワンマン運転線区で発生している問題点の解決なく、安全性・サービスレベルが低下する長編成ワン マン運転開始は認められない。会社は、申38号「ワンマン運転実施における諸課題の解決を求める申 し入れ」の団体交渉で、私たちの指摘に対して、ワンマン運転により発生している事故・事象は「運転 士の不注意によるもの」とし、直接的な原因にのみ問題を切り縮め、事故・事象が発生した要因に迫ら ず「ワンマン運転になったから発生した事象ではない」との回答に終始する姿勢を貫いている。この経 営姿勢は、鉄道会社として安全に対する責任放棄であり、JR東日本の安全マネジメントの問題である。 私たちは「今職場で担うことは何か」「優先するべきことは何か」を考え行動し、私たちの運動で安全な 鉄道を提供し続けよう。

鉄道の最大の使命は安全だ。安全とは自分自身のみならず、利用者・仲間・家族の"いのち"を守り 抜くことである。JR東日本を憂うる声は内外問わず悲痛な声として連日届けられている。しかし憂い ているだけでは現状を変えることはできない。黙っていることは否定的な現状を認めることと同じだ。 「組織再編」「融合と連携」「みどりの窓口の閉鎖」などの施策によって要員が大幅に削減され、系統を 問わず超過勤務・休日出勤の増加で職場は疲弊している。さらに、人の心を壊す「新たなジョブローテ ーション施策」によって仕事に対するモチベーションが大きく低下している。ビジネスと人権を重視し、 社員が安心して働ける職場環境、賃金・労働条件は安全な鉄道輸送を提供するためには何よりも重要で ある。今こそすべての仲間と共に声を上げ、施策に向き合い課題解決に向けて行動する時だ。今ある仕 事を直視し、地域と社会から信頼され必要とされるJR東日本であり続けるために、鉄道の安全性を再 確立しよう。そのためには人間力・現場力の蓄積、鉄道人の自覚と責任を持ち、立ち向かわなくてはな らない。そして、真の笑顔と活気あふれる職場を取り戻すために組織の強化・拡大を実現しようではな

2024年8月12日

"いのち"を守る!鉄道業の専門性を重視した人間力・現場力が蓄積された 「鉄道人」の自覚と責任ある行動を実践し、社会から信頼される 安全な鉄道を実現する8・12集会



突如「みどりの窓口廃止計画凍結」組合からの再三再四の指摘が的中 ・利用者を置き去りにした傲慢な経営姿勢が明らかに

《私たちの主張・求めたこと》

- ◇ 人に拠らない販売体制の構築、「コロナ前には戻らない」と窓口 を閉鎖し続けてきたが、組合は「サービス・利便性の低下」にな ると指摘し続けてきた。経営の見通しの甘さ・ミスであると認め るべきだ。
- ◇ 窓口の設置駅を 140 駅まで減らす会社の誤った方針は、利用者 にご不便とご迷惑をおかけする事態を招いた。
- ◇ 「不便に慣れて頂く」という現場長発言は、不信感しかないし現

《しかし、会社は…》

- ✓ お客さまにご迷惑をおかけしたのは事実、会社として受け止めて いる。窓口が混雑し、開設を求める声は増えているが、様々な情 報を知得し、複合的に判断し窓口閉鎖の一時凍結とした。「人に 拠らない販売体制の構築」については変わらない。
- 140 駅の窓口開設状況に縛られることなく、個別の駅の状況を
- と列の解消は会社としても課題であると認識している。お客さま 任せ、慣れてもらうということではない。現場だけではなく、会 社として課題解決に向けて努力していく。

任

現場で働く組合員。社員、利用者に負担を押し付ける会社姿勢は断じて容認できない

葉支社エリアで奮闘する組

合員とすべての仲間のため

の運動をつくり出すために

大を実現しましょう。

JTSU-E

2024年7・8月期 団体交渉開催状況

8月1日	申38号	ワンマン運転実施における諸課題の解決を 求める申し入れ	第3回目	
	申1号	「脱退パワハラ訴訟」控訴審判決に基づく JR東日本の使用者責任と社員の安心を 実現する経営責任の履行を求める緊急申し入れ	第1回目	全項 終了
8日	申2号	京浜東北線での営業列車乗務員室体験乗車の 即時中止を求める緊急申し入れ	第1回目	
9日	申40号	公共交通を担う者の責務を全うするために、 現場と利用者の声に踏まえた駅販売体制の 再構築を求める申し入れ	第1回目	

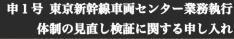
2024年7・8月期 新規申し入れ状況

ビジョン

主役は"一人ひとりの仲間" 全職場からの創造を









. 安全やヒューマンエラー防止の観点から各担務につい は職制に基づいて指定すること。 本施策実施以降に異動が多数発生しているが会社の認

SHINKANSEN MAIL NEWS

楽しい時間を仲間とシェア! 仲間との "絆" を深めよう!





組織事故を起こすな!

JR九州高速船の事象を教訓に、眼前で起こっている事実から

「変革2027」を検証しよう

申1号「脱退パワハラ訴訟」控訴審判決に基づくJR東日本の使用者責任と社員の安心を実現する経営責任の履行を求める緊急申し入れ団体交渉開催

高裁認定の"不当労働行為を行った事実"を軽視

脱退パワハラ訴訟において事実認定された不法行為 に対する会社の受け止めと原告への謝罪について

- **止めている。**コンプライアンスを遵守し、 しないことはこれからも変わらない
- を支払い、判決を履行していることで使用者責任を果 たしていることから、改めて謝罪する考えはない 原告が精神的な苦痛から訓練センターでの訓練が受 講できなかったことについて
- 常時、同じ職場にいるならば好ましくないし、特に配 慮するべきものだと思う。しかし、訓練は必要な業務、 今回は一時的であり、特段の配慮は必要ないと判断し
- 顔を合わせない、接近させないという制約を設ける考
- 司法から不法行為を行ったことが認定されたにも 関わらず、現在も要職に就く2名の処遇について
- 行為を行った2名には会社として厳正な対応をして きた。平等・公正に判断して対応している。会社とし て判断が誤っているとは思わない
- 任用の基準、就業規則に則った人事運用であり問題な

私たちがつくり出す輸送サービス労組運動は 多くの共感を呼び、連帯する輪が着実に拡がっています!



中議会議員と連携し、

利用者に愛される駅をつくる取り組み 7月12日、三多摩支部は「第3回こ 平市議会議員の吉本氏、八王子市議会議 員の九鬼氏にもご参加頂きました。

駅の抱える問題やジョブローテーショ ン・統括センター化が抱える問題、教育問題などについて議論し、認識一致を図ってき 🔷 私たちが守るべき安全・長編成ワンマン運転を巡る問題点を共有

ました。引き続き、輸送サービス労組に連帯する議員と共に利用者・市民に安心してご 利用頂ける鉄道をつくり出していきます。

◇ 職場に不安をもたらす原因不明の体調不良解決に向けた一歩

7月18日、東京新聞で「中電病」と呼ばれる相次ぐ体調不良について報道されその 後、会社が対策を実施することを表明しました。この間の職場からの取り組みがきっか けとなり、取材を受けています。

◇ 安心して働ける環境づくりについて米報道機関で報じられる

7月 26 日、ニューヨークタイムズ紙にてカスハラに関する報道がされ、駅で日々 **と推し進めていきましょう!**

発生するカスハラ被害の実態について取材を受けた内容が掲載されています。 第三者機関と連携してあらゆる不当労働行為の根絶を

8月5日、 ILO駐日事務所にて意見交換を行い、脱退パワハラ訴訟や未だに職場 で繰り返される小当労働行為の実態を訴えました。今後も第三者機関を活用して不当 労働行為やハラスメントを根絶し、真の笑顔と活気あふれる職場をつくり出していき

れからの駅を考える会議」を開催し、小 🔷 安全を守るための常識的判断にマスコミも共感

8月8日、京浜東北線の乗務員室に職業体験の中学生を乗車させた問題について、 読売新聞より輸送サービス労組へ取材された内容が掲載されました。記事では経営姿

勢について「勇み足」と指摘しています。

8月9日、長編成ワンマン運転を巡る問題について綾瀬運輸区分会は松戸市議会議 員の岡本氏と意見交換会を開催しました。

意見交換ではいかに利用者・市民の安全を確保するかの視点に立って議論を深める こと・今後も共に連帯して取り組んでいくことを確認しました。

私たち輸送サービス労組がつくり出す運動は多くの方々より共感を得ています。自 信と確信を持ち、すべての職場からすべての仲間と共に輸送サービス労組運動を堂々